

留学報告書
～かけがえのない宝物～

アラスカ大学フェアバンクス校
国際文化学部（長期）

私はアラスカ州内陸部にあるフェアバンクスに約 9 か月間長期留学をしました。私が留学を希望した理由は、元々海外に興味があるのに加え、新しいことに挑戦しその挑戦をする中で様々な価値観や考え方を学びたいと考えていたからです。さらにそこで得た経験を活かし物事を多面的に捉え、多様なバックグラウンドをもつ人々とのコミュニケーションを築くスキルを向上させたいと考えていました。

初めて私の留学先がアラスカと聞いた際には期待と緊張が入り混じりました。アラスカ州というのは私が生きてきた中でまるで馴染みのない場所であり、「寒そう」、「サバイバルな場所」、「熊」など漠然としたイメージしかありませんでした。友人や知人からは「アラスカって何があるの?」「なんでアラスカ?」と少しネガティブなイメージを持たれていましたが、私にとっては未知の世界だからこそ「こういった機会にしか行くことがない、ラッキーだ」と前向きに考え、どんな世界なのだろうと胸を膨らませていました。約 9 か月間の留学を経てアラスカで私は期待をはるかに超える一生忘れられないような数々の経験をし、留学を通じて「アラスカ」に巡り合えたこと、本当に良かったと心から感じています。

最初に英語の壁を感じたのはシアトルからフェアバンクスまでの飛行機です。機内サービスでドリンクが来たのですが、「Water」が伝わらず数回やり取りをした後、謎のオレンジの液体を渡されたのを覚えています。その時に私は水の一つも伝えられないのか、そんな自分が本当にこれから英語の世界で生きていけるのかと焦りを感じました。今まで日本語の世界にしかいなかった自分の世界が一気に覆され、最初の頃は何を言えばいいのか、皆私の相手をしてくれるのか、聞き取れなかったらどうしよう、など英語に対する様々な不安な気持ちを抱えていました。そんな中でもやはりここはアメリカ、日々生活をする中で多くのカルチャーショックや試練に直面しました。

特に印象的だったことは、人柄において誰に対してもオープンマインドで社交的、常に自分軸、そして良くも悪くも全てに対して「適当」ということです。社交的という面において一つ例を挙げると、思いがけない場面でも気軽に会話が始まり多くの人との繋がりが増えるということです。私の初めての友達とは寮の共同バスルームで出会いました。私が手を洗っていたところに、友人が話しかけてきてくれそのまま意気投合し翌日には夕飯に誘ってくれました。会話をする中でトイレに行く他の人も一緒に混ざり盛り上がったのを覚えて

います。それがアメリカ人の人柄へのファーストインプレッションになりました。さらに日々生活をする中で、様々な考え方の違いも感じました。例えば試験やプレゼンテーションの前など、通常は緊張し「失敗しないかな、うまくいくかな」と負の感情を抱きがちですがアメリカ人のほとんどの友人は「なんとかなるさ！なるようになる！」といった日本人の生真面目な性格からは考えられないマインドで、なんてポジティブ思考なのだと驚きました。他にも買い物をする際、そのコーナーのものとは全く関係のないものが置かれていたり、値札の表示とは異なる価格を請求されたり、善意で無料サービスをしてくれたりと日本では遭遇しなかった様々な出来事を目の当たりにし、すべてが私にとって刺激的でした。

次はアラスカの気候についてです。フェアバンクス空港に降り立ったのは8月下旬でしたが外に出た瞬間、「寒すぎる、なんなんだここは。」と感じたのを未だに覚えています。さらに気温だけでなく、現地の人たちの格好にも驚きました。私が半袖に上着の格好で凍えている中、現地の人たちは「まだ全然暖かいよ！」と半袖を着て笑顔だったのを忘れられません。北極圏に近いフェアバンクスでは10月初旬に雪が降り始め、気温は氷点下になります。しかし不思議と現地で過ごす時間が増えるにつれて身体も慣れ、1-2°Cの日には暖かいと感じるようになりました。私が現地で生活する中での最低気温は-38°Cでした。例年程低くはならなかったみたいですが、私は外にいるのが5分程で限界になり、このままでは身体が危ないと感じるほどでした。日本では外出中に限界と感じる温度を経験をすることがなかったのですごく新鮮で面白い体験だったと思います。さらにフェアバンクスは世界的にもオーロラ観測地で有名なスポットであるため、私の場合は寮の建物の裏、または寮の部屋の窓から高頻度でオーロラを観ることができました。人生で初めて観るオーロラは壮大で幻想的で、今でもその時の感動を覚えています。

最後に授業についてです。最初は、授業についていけるのだろうかと不安でしたが、先生方の親切で明るい対応に非常に前向きに楽しく英語を学ぶことができました。私が想像する授業は文法や基本的な英会話・英単語などでしたが、実際は、アラスカの文化や歴史、アメリカ文化と日本文化の違い、環境問題、人権問題についてなどと、想像をはるかに超える深い学びのある内容でした。一見難しそうな内容でもそれを難しいと感じさせない先生方のやり方やプロセス、全てにおいて圧倒されました。アメリカの大学の授業数は日本の大学とは少し異なり、1つの科目を週に2、3回行うためその日に出された課題を授業後または翌日中に行う必要があります。課題の量も多く、慣れない言語での内容で通常より多くの時間を費やすため、授業後寮に戻ってから寝るまでの時間をいかに効率よく活用できるかということを常に意識して毎日生活をしていました。やるべきことが思うように進まない時や、内容理解ができずやりたくないと感じたこともありましたが、焦らず一つ一つ目の前のやるべきことを着実にこなし、課題に追われながらも大変充実した日々を過ごすことができました。

現地の学生や先生たちがとても親切で最初は話すことが怖かった英語も徐々に慣れ、留学の約 9 か月間を通して積極的に様々なことにチャレンジすることができたのと同時に、自身をより強く・成長させてくれたと思います。英語だけではなく様々な考え方や価値観、母国を離れて初めて分かったことなど多くの大切な気づき・学びを得ることができました。私の夢であった「留学」を実現できたのは決して自分だけの力ではないと思うので、関わってくださった全ての方への感謝の気持ちを忘れずに、留学で培ったものを今後も活かしていきたいです。

